

【別紙】 令和4年度 学校自己評価重点目標シート (川口市立 仲町小 学校)

(A 4判横)

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校教育目標	かしこい子 やさしい子 たくましい子
目指す学校像	子供たち一人一人が、よさや可能性を伸ばし、たくましく未来を切り拓く学校 ～学校・家庭・地域が連携し 学び合い・ふれあい・高め合い～

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	
学校関係者 (教職員を除く)	7名
事務局 (教職員)	3名

学 校 自 己 評 価				年 度 評 価 ( 令 和 5 年 2 月 1 4 日 現 在 )		
領 域	年 度 目 標			重点目標の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
	現状と課題	重点目標	具体的方策			
組織運営	<p>○教職員のよさや適性を活かし、組織的な取組を進めている。</p> <p>□教職員の学校運営参画意識を一層引き出し、より効果・成果に繋げていく取組が必要である。</p>	<p>○コロナ禍の教育活動について、職員に優先順位を周知し、圧縮、軽重の視点をもちつつ、目指す学校像の具現化に向けてチームとして最大限の成果をあげる組織運営を行う。</p> <p>□各主任のリーダーシップのもと、PDCAサイクルにより、効果的な教育活動の実現を目指す組織とする。</p>	<p>○各時期における重点目標及び実現のための方策を具体的に示し、各リーダー層のコミュニケーションを充実させ、組織運営を活性化していく。</p> <p>□学校課題を常に明確にし、分掌主任への日常における継続的な指導の機会を増やす。</p>	<p>○キャリア段階に応じ、学校運営に積極的に取り組む教職員の姿が見られ、目指す学校像に近づけることができた。</p> <p>□コロナ禍における教育活動の充実に向けて、各主任のリーダーシップのもと組織で協力し合い、学校運営を進めることができた。</p>	B	<p>○ベテランの経験値と中堅・若手の機動力を融合させ、組織として教育改革に果敢に取り組むことができるようにする。</p> <p>□現状維持に留まることなく、児童の育成に向けて新たな提案をし合える組織づくりを目指す。</p>
教育課程	<p>○子供たちの学力向上に向け「主体的・対話的で深い学び」による授業改善の充実に取り組んでいる。</p> <p>□コロナ禍において、児童の学びを止めない方策の検討が必要である。年代を問わず、ICTを積極的に活用し、教育活動の充実に繋げる。</p>	<p>○児童一人一人に分かる喜びを味わわせることができるよう、教育課程の見直し及び授業の質的改善に取り組み、資質・能力の育成により学力の向上を図る。</p> <p>□ICTを積極的に活用し、児童が学ぶ楽しさを味わえる授業を実践するとともに一人一人の学力の伸びに繋げる。</p>	<p>○学力調査等を活用し、本校の学力における課題を明らかにするとともに、資質・能力の育成に向けた授業の在り方、指導と評価の一体化について研修に取り組み、授業の質的改善を実現させる。さらに、日本語指導教室との連携を密にし、日本語指導の組織的・継続的・効果的な指導・支援を実施する。</p> <p>□ICTの効果的な活用について事例等を共有し、研修に取り組む。</p>	<p>○学力の向上に向けて、「主体的・対話的で深い学び」により資質・能力をバランスよく育成するために、各教科等の授業、学校行事等のあらゆる教育活動に意図的・計画的に取り組んだ。</p> <p>□教育活動において、昨年度以上に効果的なICTの活用が進んだ。端末を文房具のように使いこなす児童の姿が見られる。</p>	B	<p>○年間を通じて、慌ただしく教育活動を行う様子が否めない。児童の育成を主眼とした教育課程の見直しが必要である。</p> <p>□ICTの効果的な活用が進む中、苦手意識をもつ教員も積極的に活用することができるよう工夫を図る必要がある。</p>
開かれた学校づくり	<p>○児童の様子をHPで発信するなど、学校の教育活動を公開するとともに、保護者や地域の方々のボランティアによる活動に積極的に取り組んでいた。</p> <p>□コロナ禍におけるコミュニティ・スクールや学校公開を検討し、学校の様子を直接見ていただき、意見交流を行う機会を増やした。</p>	<p>○学校の教育活動を積極的に公開するとともに、保護者・地域との連携により学校の教育力を向上させ、地域に愛され育つ学校を目指す。</p> <p>□コミュニティ・スクール等を通して、保護者や地域との課題共有を図るとともに連携を強め、協働を実現させる。</p>	<p>○担当教職員と連携し、HPの発信を積極的に行うなど、学校としての情報発信に努める。</p> <p>□コロナ禍における学校公開や学校運営協議会等の在り方を再度見直し、工夫を図ることを通じ、学校と家庭・地域との連携を強め、協働を実現させる。</p>	<p>○学校HPや、今年度導入した連絡アプリ「コードモン」の導入により、学校の情報発信に努めた。登校時の安全の見守りや各学校行事等において、PTA執行部の尽力等により、多くの保護者の協力が得られている。</p> <p>□運動会の全校一斉開催や音楽会、授業参観等において工夫を図り、昨年度以上に学校の様子を広く公開した。学校運営協議会について、3回の実施を通じ、意見交流の充実を図った。</p>	A	<p>○学校の教育活動について公開・発信に努めているが、意見をいただく場が少ない。「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、保護者・地域との連携による学校の教育力の一層の向上を図る。</p> <p>□学校運営協議会 (コミュニティ・スクール) 等の在り方を工夫し、学校運営について、保護者・地域、学校の願いを共有し、地域に開かれた学校づくりのさらなる推進を目指す。</p>
教職員の資質向上	<p>○児童理解に基づく、細やかな配慮のある教育実践を行う教職員が多い。働き方改革と併せて、様々な課題に適応できる力の向上が課題である。</p> <p>□授業力の向上に向けて、主体的・組織的に取り組む教職員の育成を図る。</p>	<p>○児童一人一人との信頼関係を構築し、安心して通える学校づくりに組織的に取り組む教職員の育成を推進する。</p> <p>□授業力の向上に向けて、主体的・組織的に取り組む教職員の育成を図る。</p>	<p>○生徒指導部会、教育相談部会を中心とし、関係機関と連携を図りながら、一人一人に応じた支援策について検討し、安心して通える学校づくりに組織的に取り組む。</p> <p>□働き方改革に伴い、業務内容の見直しによる具体的な削減を行い、児童に向き合う時間を増やす。</p> <p>□教員同士が指導力の向上に向けて互いに学び合う場を設け、意欲及び指導力の向上を図る。</p>	<p>○多様な児童一人一人について教職員が共通理解を図り、関係機関と連携を行うにつれ、よりよい指導・支援に繋げるよう努めた。</p> <p>□「ふれあいデー」「リフレッシュデー」の定時運動など、メリハリをつけた働き方について教職員が意識を高めた。</p> <p>□課題を焦点化した校内研修について工夫を図ったことで、協議が充実し、教員の指導力向上につなげることができた。</p>	B	<p>○多様な児童が在籍する中、適切な関わり方等について指導者を招聘し効果的な研修を行うなど、指導力を高める。</p> <p>○様々な課題が山積する中、児童に向き合う時間的・精神的なゆとりが生まれにくい現状がある。本質を見極めた業務の整理・精選に取り組む。</p> <p>□教職員の資質向上に向けて、必要感のある主体的な研修の実施について、さらなる工夫を図る。</p>
施設・設備等の管理	<p>○保護者・地域の協力のもと、緑化や環境美化が充実し、潤いのある学校づくりが進んでいる。</p> <p>□校舎の建て替えを見据え、施設・設備の確実な安全管理、教育効果を充実させる整備等を進めている。</p>	<p>○緑化・環境美化・環境整備を進め、潤いのある学校を実現させる。</p> <p>□安全に教育活動を実施することを第一に、施設・設備を管理する。</p>	<p>○清掃活動や緑化活動をさらに充実させるとともに、校内環境整備活動等により、潤いのある教育環境を整える。</p> <p>□定期的・臨時的な安全点検を充実させ、教職員の危機管理意識を高めながら、計画的に環境整備を進める。</p>	<p>○日常的な清掃活動、授業や委員会活動に伴う緑化活動、PTAによる環境整備活動等により、潤いのある教育環境となっている。</p> <p>□校舎の老朽化が進む中ではあるが、教職員や保護者による定期的・臨時的な安全点検により、危機管理意識を高めるとともに、施設・設備の事故を防ぐことができている。</p>	B	<p>○児童の作品等の掲示を一層充実させることで、自己肯定感の伸長を図り、潤いのある教育環境を整えていく。</p> <p>□校舎の建て替えに伴う教室の配置転換や荷物等の移動を計画的に進めていく。</p>

学 校 関 係 者 評 価	
※実施日	令和 5 年 2 月 2 1 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>○教職員それぞれのよさを発揮するとともに、互いにカバーし合えるような風通しのよい雰囲気作り組織全体で取り組むことが大切である。</p> <p>○若手が保護者と関係を作るのに苦勞する様子が見られる。</p> <p>□教員のなり手不足が大きな課題となっている。課題解決に当たっては、教員の待遇の改善が急務である。</p>	
<p>○子供の学びが“やらされる”ものとならないよう、主体的に取り組める授業の質の転換や、さらなる改善を図る必要がある。</p> <p>□児童の学力向上に向けて、ICTの効果的な活用を図っていく。</p>	
<p>○保護者や家庭環境の変化、児童の発達段階から、何かと学校に解決を求めることが多くなっている。</p> <p>□学校だけでなく地域においても子供たちの居場所づくりを構築していきたい。</p> <p>○地域のネットワークづくりを広げたい。</p> <p>○多様な児童の理解について保護者の理解を促す必要がある。</p> <p>□学校行事等でアンケートを活用し、保護者・地域の声を学校運営に生かしたい。</p>	
<p>○共生社会を生き抜けるよう、子供たちの得意なところを伸ばし、互いのよさを認め合う教育を推進していく。</p> <p>□教職員の過信から誤解が生じないように、指導について常に見直す姿勢をもつことが大切である。</p>	
<p>□校舎の建て替えと老朽化を見極めながら、潤いのある、安全な教育環境を整える必要がある。</p>	